

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会 〒136 東京都江東区 夢の島3-2 都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

核の兵器利用と平和利用

三宅泰雄さんが亡くなってから数年経つが、今年はまだ新村猛さんが亡くなった。同時代人で反核運動の同志たちが次々に逝ってしまつて心淋しいことである。

新村さんとは、いつも久野収さんと一緒だったが、関西時代の古い友人である。彼はフランス文学で私は物理学者だから、学問上のつき合いではなく、ある新聞社の良書推薦の委員会で一緒になったからである。新村・久野の二人はいつも一緒に行動していた。図書推薦委員会で会うようになったのは、多分「世界文化」という雑誌を出して、警察にあげられ、しばらく豚箱生活をしてからであったと思う。表面上あんなに温厚な君子が(だからお公卿さんと字名があった)、非常に強い信念の持主であった。

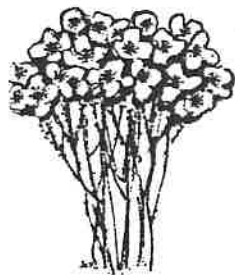
十年位前からであろうか、反核運動

が日本ではいくつかの党派に別れていて、統一した運動になつていないのは、おかしい、おかしいと言ひ出した。私は全く同意見であったので、新村さんが召集した反核運動統一のための懇談会には、応援のために馳せ参じた。三回位は会を重ねたと思うが、反核運動統一の話は少しも進展しなかった。そしてある段階で私が出した問題で、崩壊してしまつた。

伏見 康治

問題というのはこうである。私自身はいうまでもなく反核であるが、同時に私は原子力平和利用つまり原子力発電の推進者である(兵器の場合は核と言ひ、発電の場合は原子という、奇妙なしかし私にとっては幸いな語法だ)。そういう私を、貴方方の反核兵器運動に入れてもらえないのだろうかというの私の問いかけであった。他の問題での意見は違つていても、反核兵器の

(元日本学術会議会長)



岩手県紫波郡矢巾中学校の修学旅行

みんなて学びあう展示館——子どもたちの歓声あふれて
コスモスが風に揺れる頃、展示館は多数の団体を迎えます。十月の来館者は七七団体二万二千名。岩手・和歌山・山形・岡山・兵庫の各県から中学校の修学旅行が相次ぎました。川崎高校生平和ゼミナールの学習会は二十名近い高校生がそれぞれにテーマをもって実習、交流会ではビキニ被災船の調査活動への取り組みも話し合われました。埼玉県川口市の養護学校高等部の二年生、三年生も相次いで見学、先生の行届いた説明をうけて学びあい、みんなが感想記を記しました。毎年、横田米軍基地

●来館者の感想文から
▼帰国三七年、その後福竜丸被爆の事件があり、煮えくり返る思いをしたものです。その後船の復元を知りながら一度もこの姿を見ず今日にいたりました。今日すがたに接し再び原爆への憎しみを新たにしました、復元に努力された人びとへの感謝と共にたたかひの誓いを高めましよう(所沢市・佐藤)。

快晴の三日間、公園全体に無数のテントや舞台が作られ、多彩な催しと共に物産店、模擬店などが設けられ参加者は二十数万人と夢の島公園開設以来の人数。展示館前にも広島・長崎被爆展、美術館などプレハブが立ち並び、展示館も休館を返上して特別開館し、三万名近い人々が船を見つめました。館内のノートにも「原水爆禁止運動のシンボル、なつかしい友人に会ったよう」など、見学者の熱い思いがにじみました。「ここでしか買えない」と書籍の売り上げも予想以上で、片隅に置かれた「保存のために」の募金箱にも二十万円をこえる募金が寄せられました。

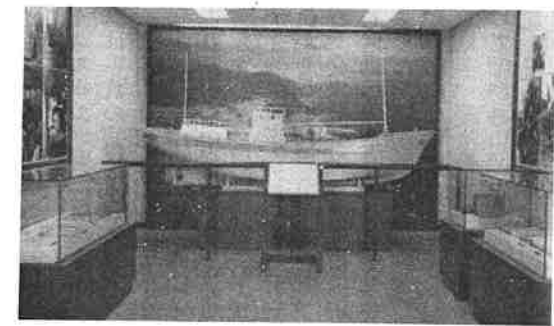
し合いが行われました。さきに、都知事宛に要望書を提出、直接の担当部局との折衝が行われたもので、公園からは田口真澄所長ほか、協会からは川崎会長、猿橋理事、杉重彦評議員(建築家)が出席しました。趣意書と共に開館以来の年度別来館者数、学校・都道府県別の利用団体一覧や、最近の新聞・テレビの報道状況などの資料を付し、「夢の島のローカルな展示館から全国的な平和のミュージアムとしての役割を果たしつつある」現状を述べ、「思い切った充実策が講じられるよう」要請しました。田口所長からは、現状や施設の問題点などはよく承知しており、現在計画段階にある夢の島公園の再整備のなかに組み入れるよう努力すると応答がありました。

▼平和への航海永遠なれ。私の町塩釜でも鮎などが売れず町全体が困つた事を思い出しました。二度とあってはならないことです。

い起こされました(江東区・小阜川)。
▼妻とふたりでやって来ました。忘れないでしよう(△歳)。
▼ずっと一度は会っておきたいと思つていたあなたに今日やっと会えました。焼津の人間として一度会わなくてはいけないと思ひ続けてきました。涙が流れて止まりませんでした。そつと秋の空をみあげました(焼津市・増田)。

▼私も昭和三〇年静岡県加茂郡西伊豆町田子のカツオ漁船に十四歳で乗組んだ事があり、当時の新造船福竜丸の事が思い出されました。二五〇トンの新造船で同じ魚場で群れを追いかけたことが鮮明に思

展示館の拡充を要請
十月二十九日、展示館の拡充に關して南部公園緑地事務所との話



焼津市歴史民俗資料館の第五福竜丸コーナー

●資料館紹介——訪ねてみましょう

第五福竜丸の母港、焼津の資料館

焼津市歴史民俗資料館

静岡県のほぼ中央に位置し、十キロメートルに及ぶ海岸線を有する焼津市は、古くから海と深いかわりを持ち、現在遠洋漁業の基地として知られています。

資料館・文化会館・図書館を有機的に一体化した複合施設で、芸術・文化活動や多様な学習活動などの拠点として、地域文化の振興に大きな役割を果たすことを期して昭和六十年にオープンしました。

常設展示は、焼津の風土に根ざした人々の歴史を各時代毎に、生活・まつり・埋葬という小テーマ別に構成し、焼津の資料を中心に展示してあり、展示物はガラスを通してではなく、なるべく直接肉眼で見られるようにオープン展示を心掛けています。

また、「小泉八雲」「第五福竜丸事件」は特別に取り上げ展示しています。

資料館活動として年四回の特別展、折紙教室等の体験学習、歴史講演会、郷土学習公開講座、映画会等の事業や、埋蔵文化財発掘調

加害の歴史に目覚める

岩垂弘

本土復帰二十年の沖縄⑤

すでに述べたように、沖縄の歴史はまさに「受難の歴史」だ。

かつて繁栄を誇った独立国の琉球王朝は、一六〇九年(慶長十四年)に薩摩(島津氏)に占領され、その支配下に入った。その後、王朝は日中両属の形で推移するが、一八七九年(明治十二年)の明治政府による琉球処分で日本に併合された。が、第二次大戦末期にはアメリカに占領され、その施政権下に置かれた。日本に復帰したのは二十年前の一九七二年(昭和四十七年)のことである。この小さな島々に住む人々は近世以来、絶えず大国の政治意図にほんろうされ、その侵略にさらされてきたと言っている。

それだけに、沖縄の人々の間では今なお、薩摩による圧政や、明治政府による沖縄差別政策、日本軍による住民圧迫、さらに米軍による厳しい占領政策を非難する声が聞かれる。例えば、薩摩による

苛酷な重税。明治政府による沖縄方言禁止。太平洋戦争で唯一の地上戦の舞台となったばかりか、その後の日本軍による住民虐殺。戦後の、米軍による強制的な土地取り上げ。それらが、まるで昨日のことのように生々しく語られる。まさに、沖縄の人々は近世以降、紛れもなく国際政治の「被害者」であったのだ。

だが、そんな沖縄の人々の間に「私たちにはこれまで被害者意識が強かったが、目をこらして見たら、周辺の人々に対しては加害者の面もあったのではないか」との思いが芽生えつつある。被害者意識から加害者としての自覚へ。まさにコペルニクスの転回と言っている。

一九九一年七月、那覇空港から台湾に向けて旅立った一団があった。「台湾の沖縄史跡を訪ねる旅」と名付けられたツアーで、総勢十七人。ほとんどが沖縄県人だった。

ガイド役は沖縄県浦添市美術館主査で沖縄近現代史研究家の又吉盛清さん。この稿の③「沖縄独立運動も明かるみに」で紹介したように、台湾・基隆に残されていた「沖縄独立運動」関係資料の発見者である。

又吉さんは、十八年前に沖縄と台湾のかかわりに注目、これまで三十数回にわたって台湾に渡り、沖縄にゆかりの深い土地を歩いてきた。地元の人々からの聞き取り調査も続けてきた。地理的に近いこともあって、昔から住民同士の交流が活発だったことを改めて確認できたが、同時にそれまで気付かなかった事実も見えてきたという。

「日清戦争に勝った日本が台湾を領有するようになるのは一八九五年(明治二十八年)から。それから一九四五年(昭和二十年)の敗戦まで、五十年にわたって日本による植民地支配が続くわけですが、その植民地支配の先兵の役割を担われたのが沖縄県人だったことが分かってきたんですよ」

又吉さんによると、明治政府が台湾に対する植民地支配の地ならしとして日本から派遣した要員の

中に沖縄県人も含まれていた。まず、抗日の武装ほう起を鎮圧するために警察官を派遣したが、その中に沖縄出身の巡査がいた。その後、兵舎、道路、病院、港湾、鉄道などの建設に従事する土木作業員や、台湾の人々に同化、皇民化教育を施すための教員、日本人相手の売春婦らが台湾に送り込まれたが、その中にも沖縄県人がいたというのだ。

「霧社事件の実相を明らかにしようと、台湾の山のひと話していたら、彼らがこう言うんですよ。日本統治時代には、よい沖縄の人と悪い沖縄の人がいたと。つまり、山の人を弾圧したり、排除、差別する側に立っていた人と、彼らに優しい人がいたというんですね。ショックでした」と、又吉さん。

「台湾の沖縄史跡を訪ねる旅」は、「台湾と住民レベルでの交流を進めるためには、私たちの側がこうした過去のことを知る必要があるのではないか」という又吉さんの構想から始まった。いわば、沖縄の人たちが自らの過去を問い直す旅だったのである。



(ジャーナリスト)

査等の事業も担っています。

第五福竜丸事件に関しては、昭和六十年六月十九日に焼津市議会が核兵器の廃絶を願う焼津宣言を議決し、同年六月三十日に第五福竜丸事件六・三〇市民集会在が発足。以来毎年六月三十日に焼津市文化センター小ホールで市民集会在がひらかれています。

また毎年三月一日には、ビキニデー実行委員会による三・一ビキニデー集会も焼津で行われています。

開館時間	九時～十七時
休館日	月曜日(祝日にある時はその翌日)
入館料	無料(特別展の入館料は別に定める)
所在地	静岡県焼津市三ヶ名一五五〇番地
電話	〇五五・六元・六八四七
交通	JR焼津駅より静鉄バス藤枝行き文化センター前下車、徒歩二分

ビキニ事件四〇周年にシンポジウム
九月九日、学芸会館で協会の第一〇八回理事会が開かれ、当面の活動計画について討議しました。来年十一月が協会設立二〇周年にあたり、翌一九九四年がビキニ事件四〇周年にあたるため、いくつかの記念事業を計画し、そのひとつとして「ビキニ事件四〇周年と平和」のようなシンポジウムを開催することなど決定しました。

評議員会開く

十一月十一日、学芸会館で協会の評議員会が開かれました。十名の顧問・評議員をはじめ理事・監事十八名が出席、「協会の活動を発展させるために」を中心議題に熱心に討議しました。展示館の拡充についても利用される学校、来館者の立場にたって、ソフト面の充実とより印象深い展示館づくりの方向で都への要請を重ねること、ビキニ事件四〇周年の記念シンポジウムは、事件の全人類的意義を確認するにとどまらず、第五福竜丸の存在意義を明白に打ち出したものとし、核軍拡競争の残した爪跡にも焦点をあてたものにしてほしいとの意見が出されました。